

# 学校行事

開校初年度より、修学旅行や長途競争などの行事が実施され、校内弁論大会やクラスマッチ、部活動の大会なども活発に行われた。その他、創立記念祭、松山高校野球部との親善試合なども年中行事として継続して行われた。

## 修学旅行・創立記念祭



萩への修学旅行(大正15年)

第1回の行き先は大宰府・博多であったが、やがて萩への一泊旅行が定着していった



創立記念祭(大正11年)

運動会や余興、運動部の大会、展覧会等のさまざまな行事の他、寮の飾り付け、提灯行列なども催された

## 長途競争・野球親善試合



防府への長途競争(大正15年)

後河原の山口座(元公設市場の辺り)を出発し、ゴールの防府天満宮まで約20kmの距離を競った  
写真は防府天満宮にて防府町婦人会からお汁粉の接待を受けている様子



松山高校との野球親善試合(大正11年)

大正9年の第1回対戦以降、昭和22年まで継続して行われ、全校をあげて応援に出向く一大イベントであった



# ジンゲルストライキ



ジンゲルスト籠城本部  
 (『柳桜をこきまぜて』より)

昭和9(1934)年、秋の創立記念祭前夜に事件は起きた。ある生徒2名が、芸者(ジンゲル)を寮に入れたことが、風紀を乱すとして2ヶ月の停学処分とされた。これを受け、生徒は寮に結集して5日間盟休。さらに、56名が停学処分になった。なぜストライキにまで発展したのか、生徒の大方が同情するのか、学校側は解せなかった。

実は、この事件には事情があった。当事者となったのは、生徒に人気があった小万龍という芸者で、彼女は山高の青年教授と結婚の約束をしており、所帯道具を買い集めていた。その頃、岩田校長から、青年教授に地元財商の妹との縁談が持ちかけられた。その結果、別の教授が小万龍に手切れ金を持って行った。傷心した小万龍を元気づけようと、生徒は記念祭の飾り付けを見せるため、寮に入れようとしたところを、寮監督に見つかったのだった。

3日間の記念祭が終わったとたんに停学処分の掲示があり、生徒が集まっているところに、生徒主事が「不穏な動きをすると、司直の手を入れるぞ」と言い放ったという。この一言で生徒が一斉に反発しストライキに至ったのである。事情を知らない生徒までもが、寮の自治が侵された、と立てこもった。ジンゲルストライキの途中で、一部生徒が青年教授のことを暴露する声明書を出そうとしたが抑えられてしまった。校長と生徒双方が謝ることで収拾することとなったが、結局校長は謝らず、生徒は不信感を募らせた。翌春、岩田校長と生徒主事は辞任し、なんとも後味の悪い事件となった。

## 旧制高校用語と流行スタイル

旧山高では、ドイツ語教育に力を入れていたためか、学生たちはドイツ語由来の独特の旧制用語を多用し、バンカラな学生生活を過ごしていた。



バンカラとは、西洋かぶれというハイカラの対義語で、野蛮に振る舞うことを言う。着古し擦り切れた学生服・マント・学帽・高下駄、腰に提げた手拭いなどを特徴とするスタイルで、粗末な衣装によって「表面の姿形に惑わされず真理を追究」という姿勢を表現したものとされている。

用語	意味	ドイツ語
ジンゲル	芸者	Singer
ドッペル	留年する	Doppel(二重)
メツェン	女子	Ein Mädchen
ゲル	お金	Geld

旧制高校用語